

議事要旨

1 会議名	令和8年度第1回吹田市ごみ減量再資源化推進会議
2 次第	1 吹田市ごみ減量再資源化推進会議 会長の互選について 2 吹田市ごみ減量再資源化推進会議設置規程の改正 3 市からの報告 (1)フードドライブについて (2)てまえどりキャンペーンについて (3)ペットボトル水平リサイクル「ボトル to ボトル(BtoB)」について 4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所からの報告 「家庭からでるプラスチックごみの分別実験」について 5 意見交換
3 開催日時	令和8年8月5日(水曜日) 午前10時から午前11時50分まで
4 開催場所	吹田市役所本庁舎 中層棟4階 第4委員会室 (Zoomによるオンライン出席者あり)
5 出席委員	会 長:1名 学 識:1名 市民団体:6名 事 業 者:8名 行 政:2名 【合計:18名】
6 発言等の要旨	次第1 会長・職務代理者の選出について 会長の任が令和8年6月30日付で一度終了した。そこで、吹田市ごみ減量再資源化推進会議設置規程の第4条第3項に基づき、会長の互選を行い、引き続き三輪委員を会長とすることが決定された。 続いて、吹田市ごみ減量再資源化推進会議設置規程の第4条第4項に基づき、会長の指名により、鴻巣委員を職務代理者とすることが決定された。 次第2 吹田市ごみ減量再資源化推進会議 設置規程の改正について 【事務局】 吹田市ごみ減量再資源化推進会議 設置規程 別表について、一部の構成団体(事業者)の社名変更等があったため、団体名の改正を行う。 【会長】 質問等はあるか。 (質問等なし) 【会長】 事務局案のとおり改正を行うものとする。 次第3 市からの報告 (1)フードドライブについて ア 令和7年度第2回(令和8年1月開催)フードドライブの取組結果

イ 令和8年度第1回(令和8年8月開催)フードドライブの実施予定

【事務局】

提供人数、重量の項目において、前回の令和 7 年 8 月を下回っており、令和7年1月と比較しても減少している。

食品ロス削減への意識が広がり、各家庭で食品を計画的に購入、消費することが定着してきた結果であれば、食品ロスの発生抑制という観点から望ましい側面もあるが、フードドライブの取組の認知不足や取組の趣旨が十分に伝わっていない可能性もある。啓発の余地があるため、市民の皆様への周知、啓発を継続しながら、フードドライブの趣旨をより多くの方に知っていただけるよう引き続き取り組んでいく。

令和8年度 1 回目のフードドライブについては、8月 18 日から 9 月 1 日の期間に、前回と同様に市役所等 4 ヶ所で実施する予定。

市内の事業者様におかれても、独自にフードドライブを実施されている。

すでに取り組まれている事業者の皆様には、引き続き取組推進のご協力をお願いするとともに、まだ実施されていない事業者様や団体様におかれましても、店頭での情報発信や、お客様関係者への周知などできることからご協力いただきたい。

【会長】

意見等あるか。

【事業者1】

フードドライブについては、各店舗において期間を定めて実施している。ただ、フードドライブという言葉があまり浸透しておらずお客様にとって馴染みのない言葉だと感じている。継続してやり続けることでフードドライブへの参加が進んでいくと考えている。現状ではまだ定着していないと感じる。

【会長】

環境関連の取組はカタカナ用語が多く、市民の方がイメージしにくくなっている。

【事業者2】

期間を定めて実施している。課題としては、各店舗への事前周知や、寄贈先とのつながりの創出、集めた食品の回収や寄贈先への配送などの物流の課題がある。

取組を継続することで、お客様にも広がり、従業員の理解も進むと考えている。

(2)てまえどりキャンペーンについて

【事務局】

「てまえどり」とは、日頃のお買い物の中で、購入してすぐに食べる場合、商品棚の手前にある商品や、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ行動のことで、販売期限が過ぎて廃棄されることによる食品ロスを削減する効果が期待されている。

「てまえどりキャンペーン」は、「てまえどり」を推進するために、食品小売店舗等を利用する市民へ呼びかけを促進する取組。

今年度も、食品ロス削減月間の10月に吹田市内のスーパーマーケット等における啓発グッズの掲示や店頭啓発を実施予定。

今年度についても引き続きご協力をお願いする。

【市民団体1】

今年度はアジェンダすいた 21 でぜひ店頭でのキャンペーンを実施したいので、協力をお願いしたい。

アジェンダすいた 21 のメンバーだけでは足りないため、(公財)千里リサイクルプラザの市民研究員にも手伝っていただきたい。

【会長】

他市でもスーパーとの共同での店頭啓発キャンペーンをやっているところはあるか。

【事業者2】

啓発物の掲示はあるが、店頭啓発をやるというのはあまり聞いたことがない。

【事業者1】

これまで掲示物の掲示は行ってきたが、店頭啓発についても協力いただけるのであれば前向きに実施していきたい。

食品廃棄物減量のために期限の近い食品の値引き等も行っているが、本キャンペーンの形により、てまえどりの意識醸成が進めば店舗としてもありがたい。

【市民団体1】

店頭啓発では、「あなたはすぐ食べる食品をどこから取りますか」という簡単な3択アンケートを準備している。アンケートを通じて、市民の方に考えてもらうきっかけになればと思っている。

取組の継続による意識づけが大事だと考えている。

【事業者1】

てまえどりキャンペーンのような啓発だけでなく、正確な発注なども合わせて必要。即効性のある取組はなかなかないが、やらないよりは様々な取組を実施したほうが良いと考えている。

【市民団体1】

国内での食品ロス発生量の推移をみると、以前は事業系と家庭系で半々だったのが、事業系の方が減っており家庭系がなかなか減っていない。このようなキャンペーンを通じて市民の方に意識を持っていただくことが必要。

【会長】

キャンペーン実施に当たっては、協力できる市民も少ないとのことだったが、市の廃棄物減量推進員(エコリーダー)の方々にご協力いただくことは可能なのか。

【事務局】

店頭啓発の具体的な内容についてはこれから決めていくところで、どのくらい人員が必要になるかもわからないうえ、このタイミングでは廃棄物減量等推進員に対する説明や募集は難しい。次年度以降については、具体的な啓発内容を明文化し、資料説明できるようにすることが前提ではあるが、同推進員への協力依頼も検討する。

(3) ペットボトル水平リサイクル「ボトル to ボトル(BtoB)」について

【事務局】

市では、サーキュラーエコノミーの取組のひとつとして、令和 8 年 4 月から、家庭から排出された使用済みペットボトルを、新たなペットボトルへ再生し、飲料容器として再び利用する「ボトル to ボトル」の事業を開始。

現在、市では、市内の公共施設や協力店舗でペットボトルを回収しており、従来は、回収したペットボトルは成形品や繊維製品、包装材など様々なものにリサイクルされていた。しかしこれからは、使用済みペットボトルは新たなペットボトルとして再生し、再び飲料容器として利用する「水平リサイクル」を実施していくこととなる。

ペットボトルは主に石油を原料として製造されているため、使用済みペットボトルを原料として新たなペットボトルを製造することで、新たな石油由来原料の使用を抑えることができ、CO₂排出量の削減にもつながると考えている。

そのため、市では、令和7年10月にアサヒ飲料株式会社、遠東石塚グリーンペット株式会社、ペトリファインテクノロジー株式会社の 3 社と協定を締結した。協定では以下のような役割で取組を進めることとしている。

〔市〕

市民の皆さんから排出された使用済みペットボトルを回収し、中間処理を行う。

〔遠東石塚グリーンペット株式会社・ペトリファインテクノロジー株式会社〕

使用済みペットボトルを原料として、再びペットボトルの原料となるリサイクル樹脂、プリフォームの製造を行う。

〔アサヒ飲料株式会社〕

再生された原料を活用したペットボトル製品の製造・販売を行うとともに、ワークショップやイベントへの出展などを通じて、市民の皆さんへの啓発活動を実施。

本取組について市民の皆さんに理解を深めていただけるよう引き続き周知・啓発に取り組む。

【市民団体2】

スーパーで回収されているペットボトルはすべて吹田市が回収しているのか。

【事務局】

市が回収しているものと、スーパーなどの事業者が独自で回収しているものがある。

【事業者1】

ボトル to ボトルの導入については検討中。回収したペットボトルの保管場所の確保と汚れているペットボトルへの対応が課題。

【事業者2】

トレー to トレー、ボトル to トレーの取組を行っている。ペットボトルは食品トレーに再資源化している。ボトル to ボトルを実施するかどうかは検討中。

【事業者1】

雨に濡れたりするとペットボトル回収業者に引き取ってもらえないこともあり、2～3割程度ある印象。

お客様が店頭に持って来られるときはきれいに洗っていただいても、保管場所

の都合で汚れることもある。

次第4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所からの報告

「家庭からでるプラスチックごみの分別実験」について

【市民団体2】

(公益)千里リサイクルプラザの市民研究所「市民とお店を横でつなぐプロジェクト」において、食品ロスの削減とプラスチックごみ削減をテーマに活動している。

メンバー7名がそれぞれの課題を研究し、出前講座で、小学生に風呂敷の積み方やすごろくゲームを作って、ごみの現状についてお話ししている。

2021年12月に、メンバーは家庭から持ってきたプラスチックごみの分別を行った。

食品のシールには、複数の種類のプラスチック素材が使われていることがわかった。

また、一般家庭で使われているリサイクル表示の種類は10種類前後ある。トレーや包装袋には可塑剤、着色料などが使われており、分別は大変。どう分別したら良いかわからないものは、結果、燃えるごみとして処分されている状況。

プラスチック製品に含まれる添加剤は可塑剤、安定剤、着色料などがある。

一般的な添加剤の流量比を出してみた。ペットボトル・食品容器などは0～3%、家庭用品・家電部品などは5～10%、日用品・玩具・雑貨などは10～20%、軟質PVC・電線被覆などは、20～40%、医療用チューブ・ビニルホース・一部の床材などは40～60%も使われている。

調査結果として、2021年12月に、6名が1週間集めたプラスチックごみの集計結果については、ペットボトルが25.6%、透明トレーが17.8%、発泡トレーが3.9%で、全体で47.2%約半分だった。残りの52.8%は分別できないため、燃焼ごみとして処理する結果が出た。

2回目は2月に行った。ペットボトルが12.8%、トレーが27.8%で、合計40.6%、前回よりも少し減った。その他のプラスチックは59.4%だったため、前回より燃焼ごみも減った。

調査を踏まえ、なぜ分けられないのかをまとめた。「複数素材が使われている」、「分解できない」、「材質表示がわかりにくい」、「市民には判断できない」、「洗う手間、剥がす手間」、「貯めておくと腐敗臭」などがあり、「市民の努力だけでは限界がある」という結論となった。

以前は、店頭回収ボックスの前に「こんなものは回収できません」や「洗って乾かして出してください」などのポスターが貼ってあったが、今なくなっている。

吹田市ではトレーは燃焼ごみとなっているが、どのように消費者にアピールすればリサイクル数が上がるのか。スーパーの回収ボックスに使用済み容器を持って行っているのか、市の回収ごみで出しているのか迷うことがある。

今後もリサイクル容器の回収に繋がる活動を続けたい。

【事業者3】

容器については、一部植物性のものを使ったり、ごみ袋については、プラスチック削減の観点からバイオマスが入ったごみ袋を使用するなど、環境に配慮した取組を行っている。

【事業者4】

プラスチックに関しては、できるだけ単一素材のものへの変更を進めている(製品の

	包装袋など)。絶対量を減らすため、包装の容積の削減やバイオマス原料の使用によりプラスチックの削減に取り組んでいる。 【事業者1】 プライベートブランド製品を作っているが、できるかぎり、詰め替え商品の取り扱いを進めたり、素材の厳選を行っている。 店舗では、できる限りプラスチックが出ない形でばら売りをするなど、コロナで一時的にやめていた時期もあるが、再開していく動きもある。 【事業者2】 容器包装の課題は、どこから取り組んだら良いか事業者としても非常に難しい。惣菜の上蓋に透明トレーを使っていたものを一部ラップに変えること等でプラスチック削減に取り組んだり、プライベートブランドの軽量化に取り組んでいる。 店舗から出るプラスチックごみはなかなか減らない。分別方法が市町村によってルールが異なっていることも課題。一部の市町村では洗ってでもプラスチックごみとして分別が必要な場合もあるし、少しでも汚れていれば燃焼ごみで良いという市町村もある。市町村によってルールが異なるため、会社として各店舗に一律に分別ルールや方針を示すことが難しい状況。 【学識】 フィジーを調査対象として、プラスチックごみの廃棄処理がどのように行われているのか調査している。フィジーではプラスチックも容器もリサイクルできないという島国特有の事情がある。焼却施設がないため、埋めるか焼却するかしかない。最近ではコカ・コーラ社が CSR の一環で、フィジーの一部のペットボトルを回収し他国でリサイクルする取組を行っている。市民・国だけの努力だけで解決できない課題もある。 サプライチェーンのグローバル化により、廃棄物問題は地域や国を超えた課題となっている。今後は国や地域レベルで一定のルールを設け、ある程度オーソライズしていかないとごみの問題が解決していかないと感じた。 本日の各団体の発表や意見を今後の調査研究に活かし、皆様にもフィードバックできればと考えている。 【市民団体1】 スーパーにおける野菜のはだか売りが促進されたらプラスチックが減るのではないかと考えるが、はだか売りをするに当たり、課題があれば教えてほしい。 【事業者1】 店舗としてもはだか売りの方がメリットはある。会社としてはできる限りはだか売りを進めていきたいが、はだか売りにより商品が傷む場合もあるため、品質の確保との両立が必要。 次第4 意見交換 【会長】 意見交換に係る事前アンケートの内容について、各団体から説明、補足があればお願いしたい。
--	--

	(1)ごみ減量・再資源化に向けた取組を推進する体制(組織)の状況、課題 【事業者1】 ISO14001 の認証を取得しており、この取組の中で数値目標を定め、廃棄物減量を進めている。店舗、本社、カンパニーの三者でそれぞれ目標設定し、達成に向けて全体で取り組んでいる。 従業員の意識づけも重要なため、数値で示して意識づけを進めている。 毎年、廃棄物の量は減ってきており、再資源化もどんどん進めているところ。 【事業者2】 サステナビリティ専門の部署ができて5年目。ごみの減量や、特に食品廃棄物の削減・再資源化を進めている。店舗運営を管轄している部署や総務(ごみ全体管理)との連携を密にしているところ。 店舗では、ごみの計量器の設置拡大を進め、排出量の見える化を進めている。 ごみの総量は減少傾向にあるが、課題はまだ山積み。 【事業者3】 ごみの管理は総務課が担当。現状再資源化しているもの多いが、事業者との商談を通じて実施・改善できるところから進めている。 廃プラスチックの分別が工場での大きな課題。食品残渣付きの廃プラスチックが多いため分別が困難。量も多い。現在は熱回収としてリサイクルしている。 軽量化等を目指したいが、現場の協力も必要なため課題となっている。 【事業者4】 サステナビリティ・環境関連部門を中心に方針・目標を設定している。 各項目についてターゲットを定め、2030 年までに何をどれだけ削減するかを設定している。 各事業部門での目標設定・管理を行い、四半期に1回進捗確認をしている。 従来から循環型の事業を行っているが、どうしても消費材は出るため、どのようにごみを削減するか、様々な方面から情報収集して進めている。 【会長】 各事業者の取組について、各社のホームページ等でも公開されていると思うが、なかなか市民に届いていないのではないかと思います。 【市民団体1】 アジェンダにも企業会員がいるが、あまり交流がなく各社の取組をあまり知らない。 エコレターという発行物があり、ぜひ取組を紹介させてもらいたいので、取材に行かせてもらいたい。 (2)ごみ減量・再資源化に関する方針・計画について (3)サーキュラーエコノミー実現に向けて実施している取組又は今後実施しようとしている取組、現場での課題 【事業者1】 サーキュラーエコノミーに関する取組については、いろいろと試行錯誤しながらやっ
--	--

ているところ。社内だけではうまく進まないところもあるため、行政の力も借りていきたい。

【事業者2】

会社の統合があったため、統合した各社の従来のやり方・運用の違いのすり合わせも課題となっている。

店舗から出る生ごみについて、廃油や魚あら等の再現化できるものは既に進めているが、食品残渣のリサイクルを今後どうしていくかが一番の課題。

【事業者3】

ホームページでESGレポートを公開している。

食品廃棄物は全国の工場において、すべて飼料にするなど再資源化している。

その他リサイクルできるものは可能な限りリサイクルしている。

廃プラスチックのリサイクル率を上げていくことが課題。

【事業者4】

サーキュラーエコノミーについては、レンタル商品が多いため、回収・洗浄・再利用により資源循環を進めている。

フードサービス事業においては、期間限定の新商品を毎月出しているため、どうしても原材料の残りが出てしまう。それを活用した新たな商品の販売も進めているところ。原材料廃棄物の再生可能エネルギー化にも取り組んでいる。

店舗での廃棄物の減量も進めており、半分ほどに減量できている。廃食油の多くはバイオ燃料化している。

【事業者5】

会議数が非常に多く、そのたびに会議資料の印刷があり、月2万枚以上印刷をしていた。紙の減量のため、会議資料のデータ配付・ペーパーレス化を推進し始めたところ。

【事業者6】

商店街において、以前ごみ箱を設置していたが、家庭ごみの持ち込みや分別が適切にできていないなどの問題があり撤去した。

JR 吹田駅周辺まちづくり協議会では、わがまちクリーン大作戦を年に2回実施している。

商店街の各個店においては、マイバッグの利用を推進いただいているが、業種によっては難しい店舗もある。

自分としては、プラントベース(植物由来)のカフェを経営しており、お店のお客様とはエンカルとはどういうことなのか話したりしている。

商店街にモニターを設けているため、本日紹介のあった「てまえどりキャンペーン」の啓発の協力など商店街としてできないことがないか考えたい。

【事務局】

アジェンダすいた21と連携し、食品ロス削減の取組である「すいた食べきり運動」を実施しており、JR 吹田駅周辺の各店舗には、推進協力店の案内を行う予定。

啓発用の資材やデータがあるので、ぜひ活用・協力いただきたい。

【保育幼稚園室】

各団体の様々な取組を子どもたちの保護者の方々にも知っていただけたら良いと思った。

子どもたちへは教育保育の中で、「ものの大事さ」を伝えているほか、市の取組やイベントは適宜、広報・周知を行っている。

【保健給食室】

昨年度に引き続き、給食で出た廃食用油は SAF の原料として再資源化している。

給食の牛乳パックについても、一部の学校では資源ごみとして回収しており、学校数を増やしていけたらと考えている。

牛乳パックが回収された後、どのようにリサイクルされるのかの紹介を授業で行っている学校もあり、今後広げていきたい。

【会長】

事業者から市民や市民団体に対して「こうしてほしい」という意見があればお願いしたい。

【事業者1】

資源の店頭回収をより進めていきたいと考えている。行政や市民団体においても周知の協力をしてもらえると市全体でゴミ減量が進むと考える。

【市民団体2】

店舗によって、店頭回収できるものの差がある(ちょっと汚れていてもいい、シールがついていてもいい、など)。

店頭回収への資源の出し方については、わかりやすく周知することで回収率が上がるのではないかと。

【事業者2】

店頭回収については、お客様の協力がないと集まらない。異物混入を防ぐために、回収ボックスの場所に貼るポスターを刷新した。資源の出し方や回収された資源が何に生まれ変わるのかを示している。

透明トレイについて、お客様からは「シールを全部剥がすのが大変」、「剥がしやすいシールにしてほしい」などの声を多くいただいているが、自社が利用している選別工場では、紙シールを選別工程の中で剥がす技術あるため、剥がさなくても回収できるようになっている。

ただ、これは事業者・店舗によって異なるため、行政や周知方法が難しいところもあるが、どこのスーパーでも店頭回収は行っていると思うので、少なくともそのことを周知すればゴミの再資源化が進むと思う。

【会長】

店頭回収については、昔より出し方を守っていただける方が増えていると思うが、最後の決め手としてはやはり「ゴミの有料化」だと考えるが、市全体の合意形成が必要な

ため最後の手段。

以前、アジェンダすいた21や(公財)千里リサイクルプラザ、市などがレジ袋の有料化に向けて検討した際の検討では、レジ袋が無料だとマイバッグの持参率は 20%以下、ポイント制にすると約40～60%、有料化にすると 80%以上となっており、やはり「有料」の力は大きかった。

ごみの処分に対しては多額の税金が投入されており、ごみが増えるほど市の財政を圧迫することになるが、市民がそこまで意識できていない。

有料化すれば、ごみ減量・再資源化が一気に進むと考えるが、市全体の合意形成が必要なため簡単にできることではない。

現状は有料ではないため、マイバッグの例でいうと20%の状態ではないか。

【事務局】

行政との連携について、令和 5 年度に、北摂の 7 市 3 町と、本日お集まりの事業者等と「北摂地域における食品ロス削減及び容器包装を含めたプラスチックに係る資源循環の促進等に関する協定」を締結している。

各事業者の取組については、各市町のホームページで公表しているが、現状はそれにとどまっている。

有料化については、回収した資源のストックヤード等の施設面の課題もあるため、十数年後の施設の建替えに向けて検討する必要がある。有料化を行う場合には、資源ごみを無料とし、燃えるごみを有料化するなど、分別を促すための仕組みについても検討が必要と考えている。

当面の取組としては、協定を締結している11事業者がそれぞれどのような取組を行っているのかを、視覚的な情報発信も含め、より効果的に市民へアピールする方法を検討する余地がある。

事業者との連携については、連携していることが市民から見えにくい面もあることから、本日の意見を踏まえ、今後の展開について検討していく。

【会長】

北摂 7 市 3 町と 11 事業者の協定については、素晴らしい取組であり、全国的にも珍しく、先進的な取組であると評価しているが、協定を締結した結果、どのような動きが生じているのかを市民に発信することは、市民意識の啓発にとって重要である。

協定を締結している事業者とともに情報発信していくことで、市全体の意識が高まるのではないかと。

また、協定を締結している事業者との意見交換や、相互に意見を出し合う機会を設けることで、さらに取組を進めていけると考える。

【市民団体1】

廃棄物減量等推進員(エコリーダー)をしている。店頭回収に関する周知については、廃棄物減量等推進員の全体会で行ってはどうか。

【事務局】

各スーパーでどのように回収しているかをわかりやすくまとめられれば廃棄物減量等推進員(エコリーダー)や市民に啓発していけると思うため、今後の検討としたい。

	【市民団体3】 どのスーパーで何を回収しているのか、いつ回収しているのかが具体的にわかれば、地域住民に周知しやすい。
--	--